

理工学

メディアセンター

ニュース

No.111

MAY.2008

"Information and Media Center for Science and Technology" Newsletter

5月の開館時間

無印：通常開館 月 - 金 8:45-21:30 / 土 8:45-20:00

○：閉館

SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

*来月以降の開館予定は次のウェブページでご覧いただけます。

<http://www.scitech.lib.keio.ac.jp/service/calendar/>

*塾内各地区メディアセンターの5月の開館日程は次のウェブページでご覧いただけます。

<http://www.lib.keio.ac.jp/schedule/200805.pdf>

目次

オピニオン 2

2009年以降の電子資料契約方針について：研究者の皆様への一提案

お知らせ 3

＜図書館利用説明会＞実施中

薬学メディアセンター（芝共立薬学図書館）を利用するには

電子図書館サービス 3

「Faculty of 1000」2ヶ月間のトライアル

コラム 4

新着図書紹介 『基礎からの衝撃工学：構造物の衝撃設計の基礎』

オピニオン

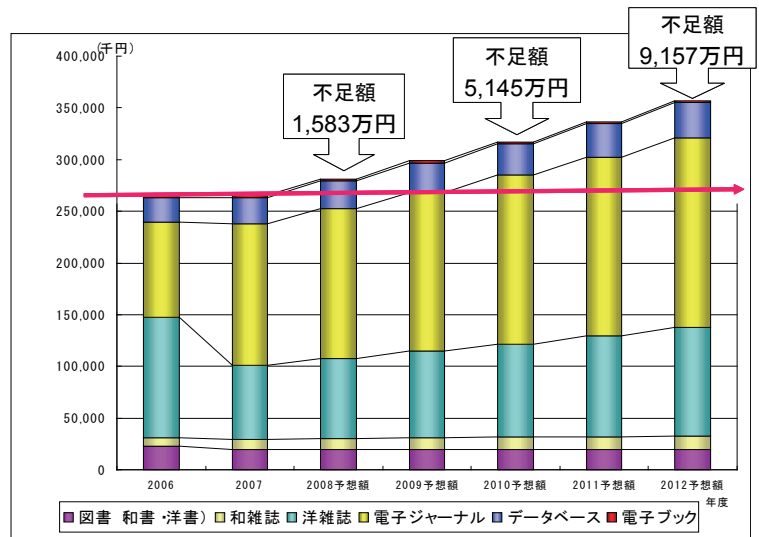
* 2009年以降の電子資料契約方針について：研究者の皆様への一提案

日頃より、理工学メディアセンターの運営にご協力をいただきありがとうございます。当センターでは、科学技術の絶え間ない進展を先導する矢上キャンパスの研究・教育活動をサポートすべく学術情報の提供に努めております。

ところが、理工学研究の主要情報源である学術雑誌の価格が、バックナンバー電子化への投資や市場の寡占化といった出版社側の一方的理由で毎年6～8%に及ぶ値上げを続けているなかで、一方、義塾の図書資料購入予算はここ数年頭打ちとなっています。

右のグラフが示すとおり、このままでは、今年度で1,583万円の不足が見込まれます。これまでは、他館との共同購入や、電子ジャーナルのみの契約への切り替えなどで支出削減努力をしてきましたが、その努力も限界に達し、もう「何かを削る」ことなしには立ち行かない窮地に立たされています。対応策検討のために、各学科・専攻等の代表教員とメディアセンタースタッフで構成される協議会を3月に臨時開催し、2009年に向けて次の基本方針が承認されました。

年度別購入額の推移と今後の支出予想額



- ① 理工学分野の主要情報源である雑誌の購読を出来る限り維持する
- ② 昨年実施した洋雑誌アンケートの結果に電子ジャーナル利用統計等を加味し、新規購入希望雑誌と既存雑誌の入れ替えを行う

この方針実現のために、現在契約中のデータベース（二次的資料）を見直し（具体的には、INSPEC、Compendex、Aerospaceの打ち切り）、更なる電子ジャーナルのみの契約を進めてまいります。

更に2010年以降を展望した場合、単なるギリ貧を避けるためには、塾からの資料購入予算だけに頼るのではなく、ある程度の安定供給を見込める資金源の獲得、学術雑誌市場の寡占化による値上げの引き金となっている大手出版社の高額電子ジャーナルの購読中止など、かなりの思い切った施策が必要と考えられます。また、現在の負の構造的寡占状態から脱却するために、研究者の方には投稿先として商業出版社を選ばないといった意思を実際に示すことを考えていただきたく思います。図書館員からの出版社への訴えかけは甘く見られる現実があり、学術誌への投稿者で、査読者で、かつ読者である研究者の翻す反旗が最大の影響力を持ち、それが根本的解決への道でもあります。

理工学メディアセンターでは、まずは自然科学系の同士である信濃町メディアセンター、続いて近隣他大学の自然科学系図書館との課題共有による連携を深め、図書館としての発言力の強化を図るなど、理工学部の研究・教育活動を支える誇りを持ちながら、学術情報の提供に努力してまいりますので、利用者の皆さまのより一層のご理解とご協力をお願いする次第です。

お知らせ

* <図書館利用説明会>実施中

平成20年度の図書館利用説明会を以下のように実施しています。既に4年生を中心に多くの研究室にご参加いただきました。まだ受講されていない方はぜひご検討ください。矢上キャンパスにこの春からいらした方にもお薦めします。

申込み、ならびに予約状況の確認は、当センターホームページ（<http://www.scitech.lib.keio.ac.jp/>）「オンラインリクエスト」の「図書館利用説明会申込」で行ってください。内容の詳細もご覧いただけます。

- 期間：5月30日（金）まで
- 内容：1. 文献（論文）を探して手に入れる <電子図書館>活用法（所要時間 約90分）
2. メディアセンターを活用しよう！（所要時間 約30分）
3. 特定データベースの使い方（所要時間 データベース1つにつき 約20分）

* 薬学メディアセンター（芝共立薬学図書館）を利用するには

2008年4月1日に、慶應義塾は共立薬科大学と合併し、慶應義塾大学薬学部・大学院薬学研究所が開設されました。これに伴い、共立薬科大学図書館は慶應義塾大学薬学メディアセンター（芝共立薬学図書館）になりました。

大学各キャンパスの塾生・教職員、また卒業生は入館利用できます。当面、KOSMOS II OPACでは所蔵資料の検索ができません。利用希望の際には、レファレンスカウンターまでお問い合わせください。また、薬学メディアセンターからの図書取寄せは無料ですが館外貸出は不可、複写取寄せは10円/枚（白黒）です。

詳細（場所・開館時間・貸出規則等）は、ホームページをご覧ください。

URL：<http://www.pha.lib.keio.ac.jp/>

電子図書館サービス

*電子図書館サービスについてのご質問等は、当センターレファレンス担当までお問い合わせください。（連絡先→E-mail: riko-mceref@adst.keio.ac.jp, 内線 40307）

* 「Faculty of 1000」2ヶ月間のトライアル

Faculty of 1000とは、学術雑誌に掲載される最新文献からノーベル賞受賞者を含む各専門分野のトップ研究者が特に注目したものを選び出し、3段階の評点と寸評を加えたデータベースで、「一読に値する論文はどれか」を専門的見地から示唆するものです。

生物学関連の「Faculty of 1000 Biology」と、医学分野に特化した「Faculty of 1000 Medicine」が2ヶ月間（5/7～7/7）トライアル提供されます。この機会に是非お試しの上、ご意見がございましたら、当センターレファレンス担当までお知らせください。

接続先 URL：<http://www.scitech.lib.keio.ac.jp/dblist/dbleaf.php?id=4>

（当センターホームページ内「データベース」の"トライアルデータベース"）

* 新着図書紹介 『基礎からの衝撃工学：構造物の衝撃設計の基礎』

石川信隆 [ほか] 著 森北出版 2008 年

「衝撃」に関する研究は、ニュートン以前から力学研究の対象とされてきました。しかし、21世紀に入ってから実用にまで発展、普及しているとは言いがたい状況です。その原因として、衝撃現象そのものが極めて複雑であることなどが挙げられます。とはいえ、科学の発展とともに実験技術や解析技術は飛躍的に進歩しており、未解明の部分がしだいに明らかにされてきています。

土木、建築の分野には対象とすべき多くの衝撃現象による問題があります。これらの衝撃現象を理解し、問題解決のための知識や解析方法、実験技術を習得し、衝撃に耐え得る構造物を造ることは、土木、建築の実務に携わる技術者や研究者の使命であると言えます。本書は、衝撃の基礎を学ぶ学生が手軽に勉強できるように、日常生活にある身近な衝撃を例にしながら、その現象をわかりやすく解説しています。基礎的な内容を中心に、衝撃を概念的ではなく工学的に理解できるように構成されています。

(請求記号：501.34@I4@1 配架場所：本館 2F 一般図書)